

ユーザマニュアル

freee 会計版 処理手順

2024/08/28 株式会社 HAYAWAZA

1. 内容

1.	内名	<u> </u>	1
2.	事業	美所データの作成	2
	2.1.	消費税設定の確認	2
	2.2.	マスター出力	5
		美所の作成	
		事業所データの新規作成	
		事業所データの設定	
		5 出し準備	
		- 一 //// Rデータの取込	

2. 事業所データの作成

2.1. 消費税設定の確認

HAYAWAZA で事業所データの作成を行う前に、freee 会計で作成する事業所の消費税設定の確認と、勘定科目、品目、部門のマスターの出力を行います。

※freee 会計版は弥生会計と違い自動連動は行いませんので、マスター登録を行わないとパターン登録を行う事が出来ません。

freee 会計で作成する事業所データにログインします。 メニューの「設定」→「事業所の設定」→「詳細設定」を選択します。







消費税設定は以下の画面で確認します。



HAYAWAZA で設定する消費税情報は、

「課税方式」 :免税、本則課税、簡易課税

「売上事業区分」 :第一種、第二種、第三種、第四種、第五種、第六種

「仕入税額控除方式」:比例配分、個別対応

「経理処理方式」 : 税抜、税込

「消費税税端数処理」: 切り捨て、四捨五入、切り上げ

以上から該当するものを選択します。

消費税設定の確認が出来たら「勘定科目」、「品目」、「部門」、「取引先」等マスターの出力を行います。

2.2.マスター出力

勘定科目の出力は「設定」から「勘定科目」を選択します。



以下の画面が表示されたら「エクスポート」から「勘定科目 csv エクスポート」をクリックレダウンロードします。



品目の出力は「設定」から「品目」を選択します。



以下の画面が表示されたら「エクスポート」から「CSV エクスポート」をクリックします。



つづいて「エクスポート履歴」を選択すると、以下の画面が表示されますので 「ダウンロード」をクリックし、ファイルを保存してください。



取引先の出力は「設定」から「取引先」を選択します。



以下の画面が表示されたら「エクスポート」から「CSV エクスポート」をクリックします。



つづいて「エクスポート履歴」を選択すると、以下の画面が表示されますので 「ダウンロード」をクリックし、ファイルを保存してください。



部門の出力は「設定」から「部門」を選択します。



以下の画面が表示されたら右上の「インポート・エクスポート」より「部門 csv エクスポート」を選択します。



上記の選択をした後、以下の「エクスポート履歴」を選択します。



選択すると以下の画面が表示されます。



上記の画面で「ダウンロード」を選択し、ファイルを保存して下さい。

※品目と取引先は、科目に紐づいた補助科目として HAYAWAZA で使用することが可能です。(freee インポート時には、それぞれ品目と取引先として扱われます) 品目と取引先を補助科目として使用したい場合は、以下の資料を参考にしてください。

freee 版補助科目の管理について

3. 事業所の作成

3.1. 事業所データの新規作成

HAYAWAZA を起動し、左上のタイトルバーが「freee 会計」以外の場合、会計ソフトの変更をします。



「ツール」の「会計ソフトの選択」で「freee 会計」→「freee 会計」を選択します。



会計ソフトの変更を行うと、タイトルバーの表示が「freee 会計」となります。



メニューの「ファイル」→「事業所の新規作成」をから事業所の設定を行います。

「事業所の新規作成」を選択すると、以下の画面が表示されます。



登録する会社名、決算期、会計期間、消費税情報を設定します。



会社情報の設定が出来たら「次へ」を選択します。

下記の画面では、HAYAWAZAで作成した事業所にパスワードを設定したい場合に設定を行います。「管理者のパスワードを設定する」チェックボックスをチェックしてパスワードの入力して下さい(不要の場合は、この画面で管理者パスワードを省略して下さい)。



注意:

このパスワードの設定は、事業所を作成した後でも設定することは可能です。 詳しくは、「ユーザ管理」をご確認下さい。

管理者パスワード設定画面で「次へ」を選択すると以下の画面が表示されます。

以下の画面は、設定の確認画面です。設定内容が正しければ「登録する」を選択して下さい。修正する場合は、「戻る」を選択して修正して下さい。

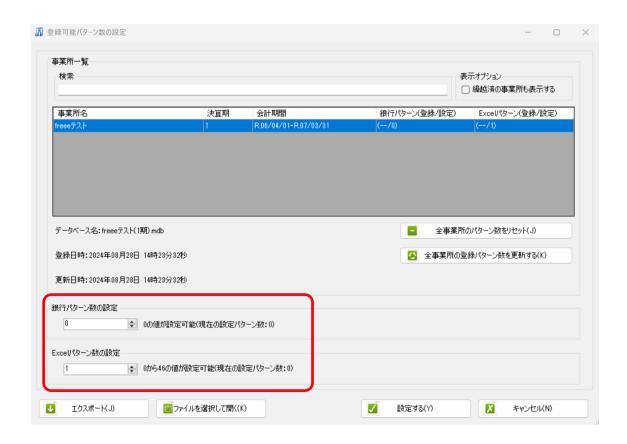


正しく登録されると完了画面が表示されます。



事業所の登録が完了したら、事業所で使用する銀行、もしくは Excel パターン数の設定画面になります。

「登録可能パターン数の設定」画面では、「銀行パターン数の設定」と「Excel パターン数の設定」の2つの値を設定して下さい。



注意:

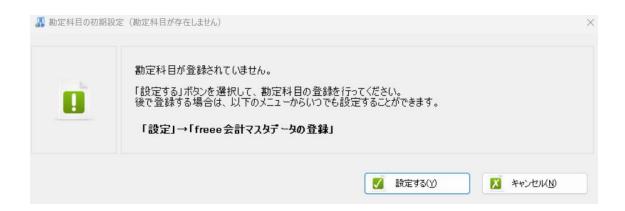
登録可能なパターン数は、「ヘルプ」⇒「ライセンス情報」で確認して下さい。体験版ライセンスは、銀行パターン、Excel パターンとも「10」となっております。

上記の画面で設定したパターン数は、後で変更することが可能です。詳しくは、「登録パターン数の設定」をご確認下さい。

パターン数を正しく入力し「設定する」ボタンを選択すると、マスタファイルの登録画面になります。

3.2.事業所データの設定

事業所の作成およびパターン数の設定が完了すると、以下の「勘定科目の初期設定」画面が表示されます。(マスタ登録後は表示されなくなります。)



「設定する」を選択するとマスタデータの登録画面が表示されます。 freee 会計で出力した勘定科目、品目、部門、取引先のマスターファイルを画面上にドロップします。

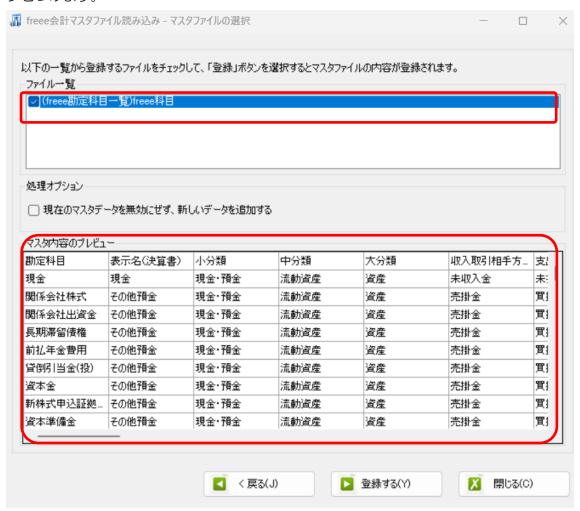


データをドロップするとデータのファイル選択画面が表示されます。

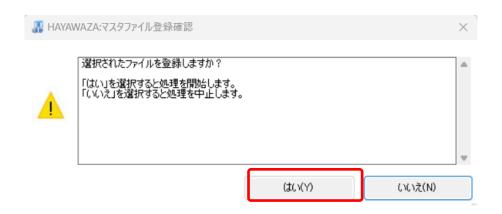
画面上部にはドロップしたデータファイルが一覧で表示され、画面下部にマスタデータの プレビューが表示されます。複数のデータをドロップした場合は選択したマスタファイル の内容がプレビュー画面に表示されます。

※品目を補助科目として登録する場合は、勘定科目を登録した後に登録を行ってください。

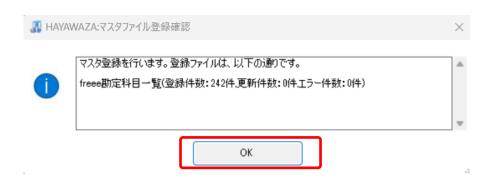
ファイル一覧でチェックをつけたデータが登録の対象となるので、必要なデータにチェックをつけます。



「登録する」を選択すると確認画面が表示されるので、「はい」を選択します。



上記の画面で「はい」を選択すると、マスターファイルの登録が開始され、終了時に登録 結果が表示されます。

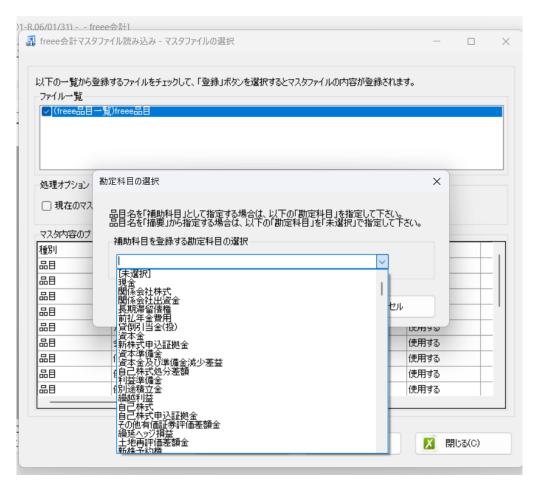


上記の画面で「OK」をクリックするとマスター登録が完了し、以下の画面が表示されます。



続いて品目の登録を行います。

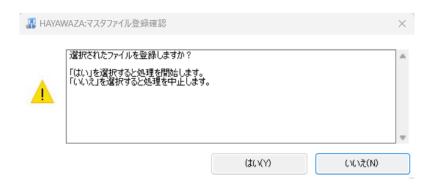
品目のマスターをドロップし、データにチェックを入れると以下の画面になります。



HAYAWAZA では、品目について1つの勘定科目に紐づけて補助科目として使用することができます。

品目名を補助科目として指定する場合は、プルダウンより「勘定科目」を指定してください。品目名を補助科目として指定しない場合は、プルダウンのリストは空白のまま、「選択する」をクリックしてください。

次に「登録する」を選択すると確認画面が表示されるので、「はい」を選択します。



マスタファイルの登録が開始され、終了時に登録結果が表示されます。



上記の画面で「OK」をクリックするとマスタ登録が完了し、以下の画面が表示されます。



以下の場合は、仕訳のインポートが正常に行われない場合があるため、取引先マスタの登録が必要となります。

- 取引先をコード管理している、または取引先コードを変更した場合
- ・取引先をコード管理している事業所で、取引先を追加した場合

※取引先をコード管理していない事業所の場合、HAYAWAZA内では自動的に「HOOOO」から取引先コードが発番されます。

取引先をコード管理してない事業所では、HAYAWAZA 内の処理のみでこのコードは使用されます。

※取引先以外、勘定科目等の項目をコード管理している場合は、取引先マスタの登録は必要ありません。

すべてのマスタの登録が完了したらパターンの登録、設定を行います。

パターンの登録後、データをコンバートし仕訳データを作成します。

※詳しくはマニュアルを参照ください。

4. 取引先について

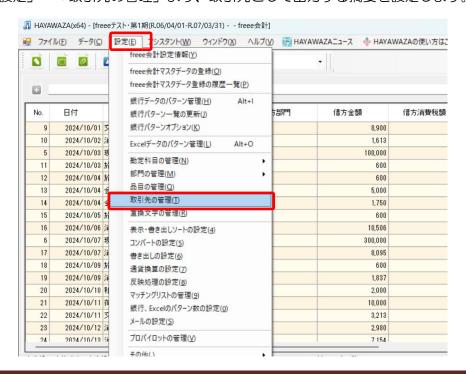
取引先一覧を登録すると HAYAWAZA で取引先を出力することができます。

※HAYAWAZA 上では取引先の項目(列)がないため、代わりに摘要欄を取引先として扱います。

(1) パターン設定の際に借方摘要1~3、貸方摘要1~3の中からどれか1つを取引先として扱うかを決めていただき、元データの取引先の列(またはセル)を指定してください。



(2)「設定」→「取引先の管理」より、取引先として出力する摘要を設定します。





取引先は基本的に自動でマッチングされます。

マッチングされない取引先に関しましては、手動での登録が必要となります。

取引先マッチングついては、別紙「取引先のマッチングについて」を参照してください。

5. 書き出し準備

freee 会計版では、自動連動は行われないので、HAYAWAZAで仕訳データを出力し、freee 会計で取り込み処理を行う必要が有ります。

次の画面で書き出しオプションを設定することができます。



※画面左上の書き出し件数には現在書き出し可能な仕訳件数が表示されています。

• 書き出しデータオプション

「仕訳エディタ検索結果を出力(未書き出し分)」:

書き出し可能な仕訳の内、現在仕訳エディタに表示されている仕訳のみを書き出す場合に チェックを入れます。

「すでに書き出された仕訳データを対象」:

一度書き出し済みの仕訳データを再度書き出す場合にチェックをつけます。

仕訳エディタに書き出したい仕訳を表示させ、書き出しデータオプションのチェックを両 方つけることにより再度書き出しを行うことが出来ます。



・出力後オプション

「書き出しした仕訳を削除する」

仕訳の書き出しを行っても HAYAWAZA の中にデータが残っており、再度書き出しを行う事が出来ますがこちらのチェックを付けると書き出しと同時に仕訳を削除し、 HAYAWAZA にデータは残りません。

「ゴミ箱の仕訳を削除する」

ゴミ箱に隔離している仕訳を書き出しと同時に自動で削除します。



• 「金額オプション」

金額が〇円の仕訳を書き出し対象にします。

仕訳エディタに金額が「O円」の仕訳がある状態でチェックをいれます。



• 「決算仕訳オプション」

仕訳データの日付に関係なく、すべてを決算仕訳として書き出します。



•「摘要オプション」

HAYAWAZA では摘要を借方・貸方でそれぞれ3 つまで設定できますが、freee 会計では一つの「備考」に出力されます。

よって、HAYAWAZAから出力する際は、6つの摘要を連結して出力します。

HAYAWAZAに入力されている摘要のうち、書き出す摘要を指定できます。HAYAWAZAで入力されていても、ここのチェックが外れている場合は出力されません。デフォルトですべての摘要にチェックが入っています。不要な場合はチェックを外してください。

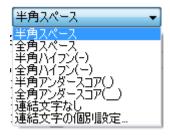
摘要は「借方摘要1~3」、「貸方摘要1~3」の順に連結されます。



「連結文字」

摘要と摘要を連結する文字を指定する事が出来ます。

「連結文字」を選択し、以下のリストから指定します。



「前後の空白を削除」

摘要の空白を削除して書き出しを行います。

「連結する空白を空白に置換」

摘要を連結した際に、複数の空白を削除します。

「連結文字の前後に摘要がないとき、連結文字を使用しない」 摘要に入力がない場合は、連結文字が出力されないようにします。

「重複する摘要は出力しない」 同一の摘要については出力されないようにします。



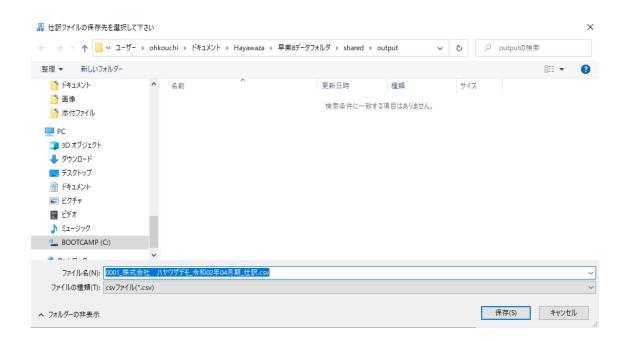
詳しくはマニュアルの「書き出しの初期設定」をご確認ください。

•「メモタグオプション」

摘要を freee 会計のメモタグに出力することが可能です。 メモタグとして出力したい摘要にチェックを入れてください。

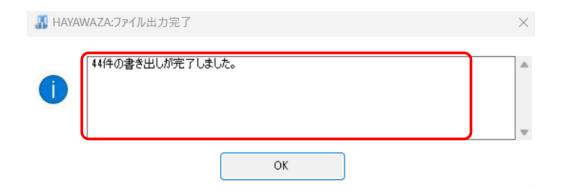


書き出し画面で全ての設定を確認し、「書き出す」を選択すると以下のファイルの出力先を選択する画面が表示されます。



保存先を選択し、「保存」を選択するとファイルの出力が行われます。 このときに出力ファイル名を変更することは可能です。

ファイルの書き出しが完了すると、以下の画面が表示されます。



※科目・補助・部門を新規作成した場合でもマスタの出力は行われません。

6. 仕訳データの取込

freee 会計の「取引」→「エクセルインポート」から取り込みを行います。





①「形式の選択」で「振替伝票データ」を選択します。



②「ファイルのアップロード」でインポートするデータをドラッグ&ドロップします。



③「各列の読み込む項目を設定」の内容を確認し「設定する」をクリックします。



④「データの処理」にてインポートされた勘定科目、補助科目、税区分のマッチングを確認します。



⑤すべての確認が終わったら「登録する」をクリックします。



クリックすると仕訳のインポートが開始されます。



インポートが完了したら、画面を更新し終了してください。